

国立病院機構 九州医療センター
脳神経外科 科長 詠田 眞治

2011年10月27日より30日まで中国瀋陽市、中国医科大学附属第一病院を訪問し、脳神経外科学についての講義、及び意見交換を行いました。

10月27日福岡空港より関西空港経由、午後瀋陽空港に到達しました。空港には名古屋大学に留学経験を持つ神経外科副教授 李光宇先生と九州大学院終了後帰国して間のない官彦雷先生に迎えに来ていただき、空港から車で約40分程で瀋陽市街に到達しました。宿泊は中国医科大学第一医院の直ぐ近くで、便利であり、快適でした。当日は主任教授の王運杰先生他、教室の方8名と会食をしながら中国医科大学脳神経外科の規模や臨床活動などについて意見交換をしました。若いスタッフの先生方の忌憚のない意見を聞くことが出来ました。

10月28日午前は大学病院を訪問し、集中治療室や一般病棟を視察しました。大変大きな病院ですが、外来患者も多く、かなり混雑した様子でした。建設後まだ数年の建物ですが、中は迷路のように複雑でした。一般病床は最大一室10床まであり、患者家族がともに入室しているところでは大変狭く感じました。集中治療室は日本の病院とほぼ同じ設備でしたが、やはり病床数が多く、手狭な感じがしました。その後に手術室を訪問しました。年間約2500症例の手術を行っており、脳神経外科専用手術室が5室あり、一日約10症例の手術を行っているとのことでした。手術室は清潔で、広く、設備も整っているようでした。症例数が大変多いためと思いますが、手術はやや雑な印象を持ちました。手術の質の改善に今後の展望があるように思いました。

午後は病院内の講義室で、約40名ほどの脳神経外科スタッフと研修医に「脳卒中の外科治療」「脳動脈瘤の外科治療」について講義しました。約2時間英語でのプレゼンテーションでしたが、必要に応じて日本語を官先生に中国語に通訳していただきました。大変熱心に聴いていただいたような印象でした。講演後にも多くの質問を頂き、聴衆の方の興味に、ある程度応える事が出来



たと思いました。講演後に国際交流処の藩伯臣先生にお会いし、講演施行証明書を頂き、会食をしながら、中国医科大学の歴史や今後の展望等のお話をお聞きしました。

10月29日は脳神経外科の若い先生方と意見交換をしました。将来に対する夢、希望と不安が錯綜するのは万国共通の若者の特権でしょうか、臨床活動が多忙なためか、大学病院とはいえ、研究活動は外国施設に依存しているような印象で、益々の国際交流・協力が必要であると感じました。夜には李先生、官先生と若い先生方と会食しながら、意見交換をしました。夜、わざわざスタッフの先生がホテルを訪問していただき、今後の臨床・研究の指針などについて1時間ほどお話をしました。



10月30日は殆ど移動日でしたが、官先生がわざわざ空港まで送っていただきました。

私にとりましては初めての中国訪問であり、大変貴重な経験をさせていただき、笹川記念保健協力財団に感謝しています。また短い滞在でしたが、殆ど付きっきりで、大変親切にお世話をさせていただきました李先生、官先生に心から感謝いたします。 以上



大学生門前。神経外科副教授 李先生と。